

教職員の能力開発活動

佐藤利夫

札幌医科大学医療人育成センター 教育開発研究部門

Faculty Development Activity

Toshio J. SATO

Department of Educational Development, Center for Medical Education, Sapporo Medical University,

医療人育成センターが開設されたときの「組織機構及び管理運営要領」のなかで、教育開発研究部門の機能の一つに、教育活動強化のための研究として「教職員に対する効果的な能力開発のあり方研究と企画・実施」が挙げられています。それまで学内のFD活動は各学部の関係委員会（医学部FD教育セミナー実行委員会、保健医療学部FD活動委員会）が企画・実施していましたが、医療人育成センターの開設後は大学全体の委員会として運営していくことになり、2009年（平成21年）9月に「札幌医科大学FD委員会」が設置されました。

1 委員会活動の概要

第1回委員会（9月14日；基礎医学研究棟5階 共通会議室）では、委員会の設置要項と委員構成について審議を行い、本委員会が発足しました。委員会は16名の委員（医学部6名、保健医療学部4名、医療人育成センター6名）で構成され、委員長は相馬仁教授（医療人育成センター教育開発研究部門）、副委員長は黒木由夫教授（医学部医化学講座）及び小塚直樹教授（保健医療学部理学療法学科）が就任しました。

第2回委員会（10月20日；保健医療学部棟1階 108会議室）で決定したことは、1) CBT問題の作成をテーマとしたFDワークショップを12月に開催すること、2) アドバイザー制をテーマにしたFDセミナーを同月に開催すること、3) 11月に開催予定の第34回医学教育セミナーとワークショップへの参加を学内に広く呼びかけること、4) 新任教員研修を医学部と保健医療学部の合同で開催すること、5) 保健医療学部の委員から推薦された講師によるFDセミナーを2月に開催すること、などであり、平成21年度のFD活動の大枠が設定されました。

第3回委員会（11月9日；基礎医学研究棟5階 共通会議室）では、第1回委員会で決定した委員会設置要綱の一部が改正され、医療人育成センター所属の委員を1名増やして7名以内とし、11月から教育開発研究部門に着任した苗代康可講師を新しく委員に

迎えました。この委員会では、第2回委員会で開催を決定したFD活動のそれぞれについて細部が協議されるとともに、1) FDワークショップにおける修了認定基準として「原則として、すべてのプログラムに出席の場合に修了を認定する」こと、2) 第34回医学教育セミナーとワークショップに参加した場合は学内教員に義務づけているFD参加の実績として取り扱うとともに資料代（2千円）をFD委員会で全額負担すること、などを決定しました。

第4回委員会（12月7日；保健医療学部棟1階 108会議室）では、12月から1月にかけて実施する予定のセミナー及びワークショップで参加者に配布する資料の内容について討議されるとともに、第2回委員会で提起された保健医療学部委員推薦の講師によるFDセミナーを3月に開催することが決定しました。

第5回委員会は、本稿執筆時点で開催されていませんが、1月15日に保健医療学部棟1階108会議室で行われる予定です。

2 第34回医学教育セミナーとワークショップ in 札幌（2009年11月14～15日）

このセミナーとワークショップは、全国共同利用施設 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター（MEDC）の主催により年4回、夏（8月）と冬（1月）は岐阜市で、春と秋はそれ以外の地で現地大学との共催で開催されています。第34回は、札幌医科大学と

の共催により行われました。2008年6月に医学教育開発研究センター長から医学部長あてに開催要請の文書が送付されていましたが、その後しばらくは医療人育成センター開設の時期と重なったことから受諾の通知がやや遅れ、2009年2月に医学部長名で「本学として共同開催をお受けする」こととした旨を先方へ伝達しました。その後、学内の受け入れ主体は当初の医学部から医療人育成センターへと移管することになり、実施に至りました。

当日は6つのワークショップと2つのセミナーが行われ、93名の参加申込み（学内21名、学外72名）があり、このほか各ワークショップの講師・演者の先生方やMEDCのスタッフも加わり、100名以上による催しとなりました。各コースの概要については、日本医学教育学会の学会誌「医学教育」に筆者の報告¹⁾が掲載されました。

3 平成21年度第1回FDセミナー（2009年12月9日；臨床教育研究棟1階 講堂）

医学部で2009年度から試行的に導入されたアドバイザー制をテーマに取り上げ、「アドバイザー制について」と題して、藤宮峯子教授（医学部解剖学第二講座）にご講演いただきました。

藤宮教授は、9月中旬に国内医科大学視察で日本医科大学を訪問し、新しいアドバイザー制を導入している日本医大の状況を視察してきました。同大学では、各学年2名ずつ計12名で一つの学生グループを編成し、卒業するまで同じグループ構成で2名のアドバイザーが担当します。藤宮先生の講演では、日本医大のアドバイザー制を紹介するとともに利点と欠点について述べ、札幌医科大学のアドバイザー制に対する提言がありました。

講演後の総合討論では、FD委員会委員長の相馬仁教授の司会のもと、医学部だけではなく保健医療学部の教員からも活発な質疑応答がなされ、アドバイザー制に対する関心の高さが窺えました。

4 平成21年度FDワークショップ（2009年12月12日；教育南棟1階 南第1・2講義室）

「CBT問題の作成とブラッシュアップ」をテーマに掲げ、外部講師として齋藤宣彦先生（日本歯科大学附属病院客員教授）を迎えてワークショップを行いました。齋藤先生は、日本医学教育学会の前会長であるとともに、社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構の医学系CBT実施小委員会委員長としてCBT問題の作成に造詣が深く、2003年（平成15年）6月にも本学の医学教育セミナーでCBT問題作成に関する講演をしていただいたことがあります。タスクフォース

には、学内から黒木由夫教授（教務委員会委員長）及び松本博志教授（CBT委員会委員長）にもご参加いただきました。

当日は31名の参加があり、午前のグループワークで客観試験問題を作成した後、午後には他のグループの問題をブラッシュアップしたうえで、仕上がった問題を発表し合いました。今後の共用試験CBT問題や卒業試験問題の作成では、質の向上が図られることが期待されます。

5 新任教員研修（2010年1月21日；臨床教育研究棟2階 臨床講義室）

直近3年以内に本学に採用された助教及び講師（昇任者を含む）及びその他希望教員を対象にしたFDです。とくに医学部において2002年度（平成14年度）以降は教育課程が大幅に変わるとともに、共用試験CBTやOSCEなどの新しい教育評価が行われるようになったことから、最近のカリキュラムに関する状況を新任教員に伝えることを目的に企画されました。17時から始めて2時間程度の研修ですが、内容としては、1)教育カリキュラム概要（両学部カリキュラム委員長、学務課主査）、2)カリキュラムとは（教育開発研究部門講師）、3)授業評価について（教育開発研究部門教授）、の3部構成です。なお、この新任教員研修は次年度も同様の内容で開催することを予定しています。

6 平成21年度第2回FDセミナー（2010年3月2日；保健医療学部棟2階405講義室）

保健医療学部の委員により企画・提案されたセミナーです。松下佳代教授（京都大学高等教育研究開発推進センター）をお招きし、「FDの視点からみたOSCE」と題して講演していただきました。

以上、医療人育成センターが開設され、全学共通のFD委員会が発足してからのFD活動の概要を報告しました。年度後半からの取組でしたが、月1回のペースで会議をもつとともに、一通りのFDを実施することができました。FDは教育開発研究部門の役割のなかでも最も中心的な業務の一つです。協力・尽力いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、来年度以降の企画運営にお力添えをいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

引用文献

- 1 佐藤利夫．第34回医学教育セミナーとワークショップ．医学教育2010；41：54．